

日本庭園史の研究について

(株)加納造園・代表取締役・加納一弘は、日本庭園における江戸時代末期の造園技術書『築山庭造伝』に関する研究論文を2018年3月京都造形芸術大学に提出しました。

日本人は、自然の中に四季の変化を感じ取り、季節を知ることによって生活の中にさまざまな文化を取り入れてきたのである。

日本庭園も四季の自然を素材として、自然風景を課題とする創作芸術であり、日本文化のひとつである。日本庭園は、どの時代においても自然を意識し、自然をテーマとして創られてきたのである。庭園という限られた空間構成の中に、作庭者の感性と美意識により創造されてきたが芸術である。日本庭園は、立地環境やそれぞれの時代の文化的状況を色濃く反映してきた「人と自然の共同作品」である。日本庭園の歴史を創ってきたのは紛れもなく「人と自然」である。

(論文前文より)

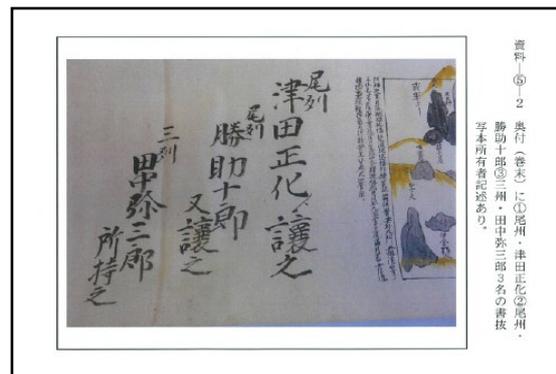
(株)加納造園は、日本文化のひとつである「日本庭園」の歴史遺産を検証し、それぞれの時代において日本庭園に歴史・文化・人々がどのように関わり、現代の日本庭園の作風に生かされてきたかを知ることは、造園という日本文化を生業(なりわい)とする者にとって必要なことであると思われる。

(株)加納造園所蔵の江戸時代末期(天保年間)の「築山庭造伝(前編)(北村援琴一著述・享保20年(1735)一刊行)より書抜されたとされる卷子(かんす)。



(株)加納造園所蔵の三河に伝わる

①江戸・天保年間に「築山庭造伝(前編)」より書抜きされた写本。

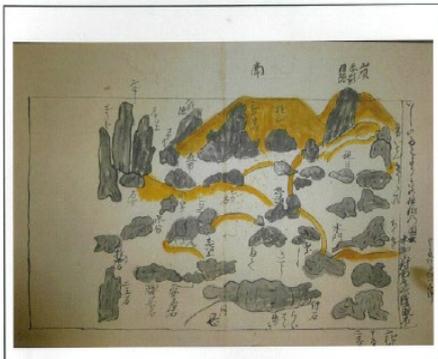


奥付(巻末)に尾州津田正化

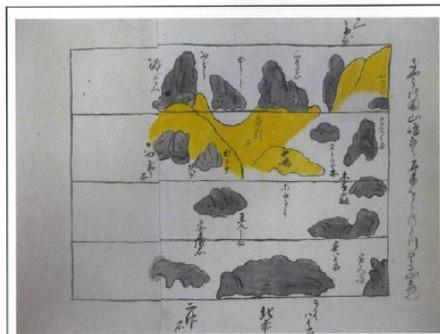
②尾州・勝助十郎 ③三州・田中弥三郎の3名の写本所有者記述あり。



③書拔による写本(卷子)全景
(当社卷子仕立)



絵図資料 ④「石の立様木の様の事」



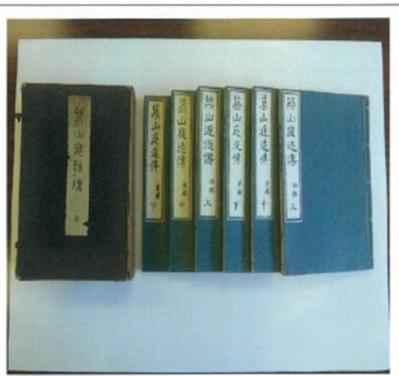
絵図資料 ⑤「滝福の事」「滝口の事」「河守の事」「三石の事」「客人島の石の事」「主人島の石の事」「礼拝石の事」

④卷子絵図資料「石の立様木の様の事」(着色有)

⑤卷子絵図資料「滝福の事」他(着色有)

榊加納造園所蔵の「築山庭造伝(前編・後編)刊行本」

著述-北村援琴・発行-建築書院・発行日-大正7年(1918年)



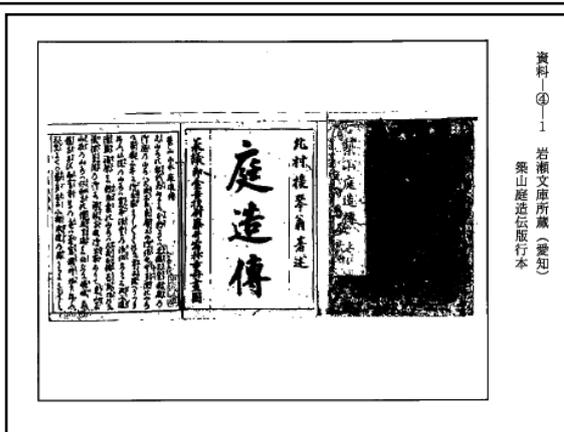
資料①「築山庭造伝(前編・後編)刊行本」
著述-北村援琴
発行-建築書院
発行日-大正七年(一九一八)

全-6冊



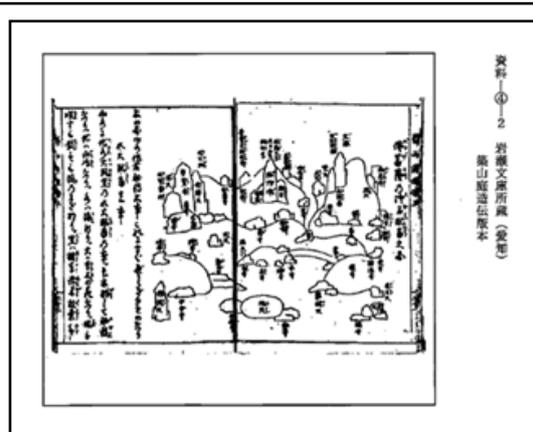
資料②「築山庭造伝(前編・後編)刊行本」

裏面部分



資料①-1 岩瀬文庫所蔵(愛知)
築山庭造伝版行本

①岩瀬文庫(愛知)所蔵本



資料①-2 岩瀬文庫所蔵(愛知)
築山庭造伝版行本

②岩瀬文庫(愛知)所蔵本

国指定名勝「伊藤氏庭園」

所在地：福井県南条郡南越前町瀬戸 29-2

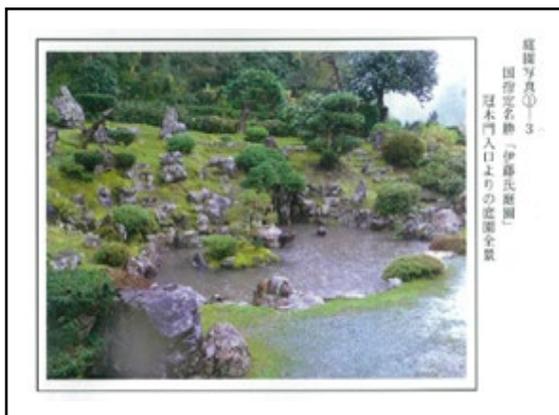
指定日：昭和7年4月19日

指定面積：363 m²

庭園様式：築山林泉式庭園

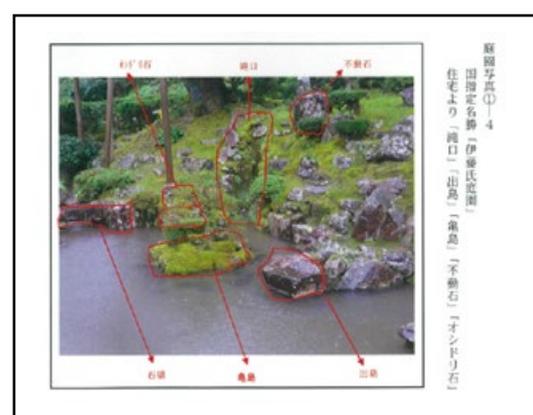
作庭年代：江戸時代中期

「伊藤氏庭園」は江戸時代中期から後期にかけて集大成された「築山庭造伝」を基に医業を営む伊藤家により作庭されて庭園である。



庭園写真①-3
国指定名勝「伊藤氏庭園」
冠木門入口よりの庭園全景

「伊藤氏庭園」一冠木門入口より庭園全景



庭園写真①-4
国指定名勝「伊藤氏庭園」
住宅より「滝口」「出島」「不動石」「オシドリ石」

「伊藤氏庭園」一住宅よりの「滝口」
「出島」「不動石」

※国指定名勝「伊藤氏庭園」については「国指定データベース・伊藤氏庭園」南越前町ホームページをご覧ください。

以上、当社所蔵の古文書と「伊藤氏庭園」等東海・北陸地方の作庭事例を検証し、論文『江戸議題末期の庭づくりのバイブル書「築山庭造伝」が地方の庭園文化に与え影響について』をまとめました。今後、江戸時代末期の東海・北陸の日本庭園の作庭文化が近代の日本庭園の作庭技法にどのような影響を及ぼしたかを検証し、当社の今後の日本庭園の作庭技術に生かすことを考えます。

以下論文『江戸時代末期の庭づくりのバイブル書－「築山庭造伝」が地方の庭園文化に与えた影響について－』要約をご一読ください。

